



発行 特定非営利活動法人 NPO ぽぽハウス
 〒522-0043 彦根市小泉町 300-9 サンロードビルⅡ 2F
 (TEL)0749-27-9777 ・ 21-0664 (FAX) 21-0665
 E-mail popohouse@nifty.com ホームページ <http://www.popo-house.jp/>

ぽぽハウス
 スタッフルーム
 通信

2010 ぽぽハッピーまつり

～ありがとう GO! GO! 5周年～
 (ハピネスひこね指定管理5年)

「ぽぽハッピーまつり」は、「北老人福祉センターハピネスひこね」の指定管理を受けた年より、それまでの「ぽぽまつり」から名称を変更して開催しています。今年の「ぽぽハッピーまつり」は、「ハピネスひこね」の指定管理が5年間無事に経過したことを記念しての、～GO! GO! 5周年～です!!

日時：2010年11月23日
 (勤労感謝の日)

10時～15時

場所：彦根市北老人福祉センター
 ハピネスひこね(彦根市馬場1丁目)

☆☆☆今年も盛りだくさんのお楽しみが
 いっぱい!! みなさん、ぜひ、おともだちを
 お誘いしてあそびに来てくださいね!!☆☆☆

♪ボランティアと景品のお願い♪

「ぽぽハッピーまつり」にお手伝いいただける方を募集します!

また、ゲームなどの景品も集めています。

ご家庭に眠っている日用品・おもちゃ等がありましたら、ご寄付をお願いいたします。

詳しくは、事務局 ☎27-9777 まで。

滋賀県協働事業

「Baby&Child 応急手当のノウハウお届け講座」 いよいよ始動!!

No.96でお知らせしました「応急手当普及隊」が、9月から始動しました。子育て経験もある5名の看護師・保健師さんが、彦根市を中心とした「ひろば」にお出かけして、子育て中の保護者の方へ病気やけがに関する応急手当等のアドバイスをするミニ講座を開きます。それにより、「救急医療のコンビニ受診問題」や、「上手なお医者さんのかかり方」等の、社会課題へ一石を投じる活動になればと思います。出かける場所は、次の場所の予定です。

- ・わいわいひろば(市内公民館) ・きらきらひろば(子どもセンター) ・さくらひろば(ウイズ)
- ・あそびひろば(ハピネスひこね) ・チャチャチャひろば(東山児童館) ・ふれあいの館
- ・わんぱくサロン(愛荘町社協) (順不同:日時等は、会場で配られるチラシにてご確認ください)

《編集後記》「一歩一歩」の100号達成です!私が編集を担当するようになって2年3ヶ月。100号の何歩分かを何とか歩いてこられたかな、というのが正直な感想です。それぞれの活動で忙しい中、原稿依頼、写真の提供、取材などに「いいですよ!」と返事をくださるみなさん、ありがとうございます。また来号からの「101歩目」も、ご協力・ご愛読よろしく申し上げます。(P)

【誰もが「生きていてよかった」といえる街づくり】

ぽぽ だより

2008年10月25日発行
 2010年9月25日発行



ひろばデイサービス・キッズ・児童デイ…

いつも 笑顔を ありがとう



ご愛読ありがとうございます。
 今月号は、通算 100号記念です!!





おかげさまで 祝100号!!

「ぼぼだより」が2001年5月25日に第1号が発行されてから、今号で100号を迎えることになりました。「ぼぼだより」の歴史は、もちろんNPO ぼぼハウスの歴史。今月は、100号記念として、ちょっとだけ昔（と言うほど昔でもないかも）を振り返ってみました。



No. 1 (2001. 5. 25号) 「ぼぼだより」発刊!

当時の記事は...

○NPO 法人 ここに誕生!

○各部門紹介

(当時:「介護・支援部門」「子育て支援部門」「ボランティア部門」)

第1号の「ぼぼだより」は、B4版片面印刷のものでした。手描きのイラストが添えられていたり、ぼぼのことが取り上げられた新聞記事の切り抜きが貼ってあったりと、「手づくり感」あふれる、今読み返しても温かい気持ちになれるおたよりです。



編集担当時代のおもいでは? (かつて、編集を担当していた数人の方にインタビューしました)

・編集作業では「個人情報保護法案」の導入時に、原稿を書いていた方の氏名の掲載に神経を使い、苦労しました。でも、写真選びのとき、いろいろな部門の方の活動の様子や笑顔の写真をたくさん見られたときに「やってよかった!」という実感がわきました。

・1号1号苦労して書いていた気がします。手探りの活動をしつつ、「こんなことをしています」「こういうことをめざしています」ということを知らせるために、各部門から原稿をもらっていました。原稿づくりもワープロで切り貼りをし、印刷も南地区公民館でしていたときもありました。100号を迎え、感無量です。

・パソコンを使っただけの編集作業は、初めてのことばかりで戸惑ってばかりでしたが、「ぼぼハウス」を深く知り、また地域を知る良い経験をさせていただき幸せでした。今後とも、地域とつながっていく大切な広報紙としての発展を楽しみにしています。

No.29 (2003. 10. 25号) 隔月発行・両面印刷に

○県立大学生作の4コマ漫画・会員による現場レポートなどの連載記事が多数始まる

No.32 (2004. 4. 26号) 紙面に写真が入る

○あったかファミリーステーション「ぼぼハウス」オープン!!

最初は事務連絡や各部の報告が主だった記事も、この号あたりから「読み物」が増えてきました。ミニサロン(当時、日夏ニュータウンの集会所で開催していました)の参加者さんや、学生さんなど、幅広い方々が寄稿してくださっています。

この時期は、現在の場所にあったかファミリーステーション「ぼぼハウス」を開所するのに向けて、忙しく動いていた時期でもあります。

開所式の様子を伝えるNo.32には、除幕式や理事紹介などの写真を掲載。この号から、「写真」は、ぼぼハウスの様

No.40 (2005. 9月号)

毎月発行に(この号以降、現在まで続く)

No.47 (2006. 4月号)

当時のおもな記事は...

○「ハピネスひこね」指定管理開始

○スタッフインタビュー 読者からのお便り紹介

No.50 (2006. 7月号) 祝! 50号!!

No.40号より毎月発行となり、各部門の活動の様子をより早く、より多く紹介することができるようになりました。

2006年は、北老人福祉センター(ハピネスひこね)の指定管理がスタートしたり、有償移送サービス・移動支援・日中一時支援などの事業がスタートした年でした。この年、「ぼぼだより」も節目の50号。この記念の号を機会に、たくさんの方からぼぼハウスへの力強いエールをいただきました。

また、ぼぼだよりの「顔」のタイトルに、【誰もが「生きていてよかった」といえる街づくり】の一文が入ったのもこの年(No.48)から。ぼぼの原点ともいえるこの言葉は、現在も変わらずタイトルに使っています。



No.54 (2006. 11月号)

2色刷りの紙面に

No.60 (2007. 5月号)

ホームページ開設

No.78 (2008. 11. 25号)

○10周年記念ぼぼハッピーまつり 開催

No.95 (2010. 4. 25号)

○児童デイサービス「はばたき」開所

No.54より、赤と黒の2色刷りで発行するようになりました。配布先の方に、「赤がきれいでもいいなあ。」と声をかけられたこともたびたびありました。さらに進化し続ける(!?)ぼぼハウス&ぼぼだより。HPには、同内容の「カラー版」もみられるようになってます。写真の美しさは、やっぱり2色よりカラー。HPもぜひ一度のぞいてみてください(ちなみに、この「カラー版」の彩色作業が、最近の一番の楽しみです)。